

〈連載〉 症例検討

脂質代謝異常症 への 多角的アプローチ 122

劇症1型糖尿病発症急性期の 脂肪肝形成過程を遊離脂 肪酸の病態から捉えた一例

延岡市医師会病院内科 医長 松尾 崇
同 副院長 後田 義彦

要約

症例は32歳、女性。心窩部痛が3日間持続し当院に紹介入院(発症第3病日)。上腹部痛、血清膵外分泌酵素上昇、臍び慢性腫大、炎症反応高値から急性膵炎と診断。治療にて膵炎は改善したが第8病日に糖尿病性ケトアシドーシス(diabetic ketoacidosis; DKA)を伴う劇症1型糖尿病(fulminant type 1 diabetes mellitus; FT1DM)を発症した。インスリン投与で血糖値は改善したが、第14病日に肝機能障害を伴う脂肪肝が出現した。血清遊離脂肪酸(free fatty acid; FFA)値は入院時440 $\mu\text{Eq/L}$ (基準値140~850 $\mu\text{Eq/L}$)、DKA発症の第7~8病日に2,097 $\mu\text{Eq/L}$ へ上昇し、脂肪肝発現時の第14病日に246 $\mu\text{Eq/L}$ と低下した。急性膵炎治療後に一過性の肝機能障害と脂肪肝を認めたFT1DMの1例を経験したので報告する。

背景

FT1DM発症後に一過性の肝機能障害もしくは脂肪肝を認める割合はそれぞれ60.4%、22.6%との報告があるが¹⁾、その臨床経過や病態については不明な点が多い^{2,3)}。本稿ではFT1DM発症後の肝機能障害を伴う脂肪肝発現機序について、FFA代謝とインスリン作用の点から検討する⁴⁾。

症例

患者: 32歳、女性。
主訴: 心窩部痛。
既往歴: 31歳 気管支喘息。
家族歴: 姉が妊娠糖尿病、産後に2型糖尿病と診断され、経口血糖降下薬内服にて血糖コントロール良好。
生活歴: 喫煙歴なし、飲酒歴なし。
体重歴: 18歳以降大きな変動なし。
現病歴: 生来健康。当科初診の半年前に健康第1子を正常産経陰分娩し、その際の腹部エコー検査および採血検査に

て異常所見なし。20XX年某日(第1病日)に上腹部違和感を自覚し翌日(第2病日)心窩部痛を主訴に近医受診。血糖値は90mg/dLと正常であったが、発熱、高アミラーゼ血症、炎症反応上昇を認め、翌日(第3病日)当院紹介入院した。

入院時現症(第3病日): 身長 166.2cm、体重 56.4kg、BMI 20.5kg/m²、血圧 121/84mmHg、脈拍 73/分・整、呼吸回数 12/分、SpO₂ 99% (room air)、体温 37.5°C、意識清明、瞳孔不同なし、結膜貧血・黄染なし、甲状腺腫なし、心音純・雑音なし、肺音清・雑音なし。心窩部圧痛あり、腹部平坦でやや硬、反跳痛なし。四肢腱反射亢進や減弱なし。

急性膵炎および FT1DMの臨床経過

入院時(第3病日)の腹部単純CT検査にてび慢性膵腫大を認めた(図①)⁴⁾。採血検査にて膵外分泌酵素の上昇を認めたが、随時血糖値は148mg/dL、血清インスリン値 8.59 $\mu\text{IU/mL}$ 、血清C-ペ